

●PET検診Q&A

Q PET検診はどのような検査方法ですか？

A PET検診（PET-CT）は、がん細胞が正常細胞に比べて、約3～8倍のブドウ糖を吸収し消費する性質に着目した検査方法です。

PET-CT検査で使うFDGという薬剤はブドウ糖によく似ているため、がんは細胞に取り込もうとします。がんに集まった薬剤をPET-CT装置で撮影することで、がんの有無や大きさ、転移などがわかります。（がんの種類や部位によっては見つかりにくい場合があります。）

Q 一般的ながん検診とPET検診との違いは？

A 一般的ながん検診では、胃、大腸、肺といったそれぞれの臓器ごとに検査を行いますが、PET-CTでは、ほぼ全身のがんのチェックが一度に可能です。

PET-CTは、がん細胞の活動の状態を撮影しますので、自覚症状のないがんの早期発見に有効です。（がんの種類や部位によっては見つかりにくい場合があります。）

Q PET検診により痛みや不快感はありますか？

A 検査で使う薬剤を静脈注射する際の痛み以外では、痛みを伴うことはありません。撮影は検査機器の上におお向けに横になるだけです。検査に際して痛みや不快感はほとんどありません。

Q PET検診で使う薬剤の副作用や放射能の影響はありますか？

A 検査で使う薬剤による重篤な副作用については、これまで報告されていません。また、検査で受ける被ばく量は全体で約10～15ミリシーベルトで、この被ばくが医学的に問題となる可能性は極めて低いと考えられています。

Q 検査を受けるときに注意することはありますか？

A 検査は糖の代謝が影響しますので、検査前の最低6時間以上の絶食が必要です。（糖分を含まない水は飲んでもかまいませんが、ガムや飴、ジュース等糖分の含まれる飲み物などを含めて食事は取らないでください。）

また、筋肉を使うとその場所に薬剤が集まりますので、前日の激しい運動等は避けてください。なお、妊娠中の方へはこの検査は行いません。